



年頭にあたって

代表理事組合長 高橋 孝二

令和5年の新春を迎え、組合員並びにご家族の皆様には謹んで新春のお喜びを申し上げます。

また、日頃より農協事業運営に対しまして特段の御理解と御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の営農を振り返ってみますと、根雪の遅れにより土壌凍結もありましたが、春先は天候にも恵まれ播種作業はおおむね順調に推移いたしました。小麦は、若干の干ばつの影響はあったものの、生育は順調に進み高収量を期待していましたが、開花時期の長雨により平年並みとなりました。甜菜は、夏場以降一部圃場での罹病の影響もあり収量・糖分とも平年には及びませんでした。馬鈴薯・豆類は、干ばつの影響で小粒傾向となり平年並みの収量となりました。

酪農・畜産は、デントコーン・牧草ともにある程度の適期収穫はできたものの、日照不足によりデントコーンは収量減少となりました。乳量については、前年よりも増産傾向となっておりますが、長期化するコロナ渦によって、牛乳・乳製品の消費が低迷し、バター・脱脂粉乳の在庫過剰に伴い期中生乳生産目標数量が修正され、生産抑制を余儀なくされております。また、ウクライナ情勢等による配合飼料等の生産費高止まりを受けている中、各個体販売価格の下落等による酪農・畜産における所得の減少は極めて大きい状況であります。

令和4年度の農協事業におきましては、11月の仮決算では計画以上の状況となっております。これもひとえに組合員の皆様の日頃の営農努力の賜物と深く敬意を表す次第であります。事業年度も残すところあと2か月あまりとなりましたが、さらに誠意努力して参りますので、組合員の皆様の引き続きの御協力をお願いいたします。

農業を取り巻く情勢は、新型コロナウイルスの長期化、ウクライナ情勢の緊迫感により、資源エネルギーをはじめ、肥料や飼料などの農業資材が高騰するとともに、急激な円安による物価高騰から経済状況がさらに悪化し、農業経営に甚大な影響を与えております。当農協としましても、経済の動向を注視していく必要があります。

今後とも地域に根差した協同組合として組合員をはじめ地域の人々と共に歩み、「信頼・利用・満足されるJA」の経営理念を基に、役職員一丸となり、令和5年度の事業を進めて

いく所存でありますので、引き続き組合員の皆様の御協力をお願いいたします。

令和5年も天候に恵まれ、災害もなく、豊穰の秋を迎えることができます様、併せて組合員ご家族の皆様のご健勝と、一日でも早く新型コロナウイルスの終息を迎えられることをご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



令和5年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 代表理事会長

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の本道農業につきましては、春先は天候に恵まれ地域によって少雨の影響が見られたものの、その後は順調に推移しておりました。ただ、6月の降雹、8月の記録的な大雨、9月の台風により、一部地域、作物によっては、生育に大きな影響が出たものがありました。収穫作業は総じて順調に進み、天候の影響を大きく受けた作物を除いては平年作を確保することができました。

しかしながら、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、各農畜産物の消費は依然として低迷しております。

さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大であり、北海道・全国連とも連携し、JAグループ北海道としてしっかりとその対応を図って参ります。

コロナ禍、国際紛争によって、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

JAグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組んで参ります。

今年は、第30回JA北海道大会の実践2年度目となります。

決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の実現に向け、様々な課題を解決する必要があります。

農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越える必要があります。

また、消費者に対しては、JAグループが提唱する、自国の国民が消費する食料はできるだけ自国で生産するという「国消国産」に対する理解を求め、消費者の行動変容に結びつけていくことが望まれます。

このためには、組合員、消費者との「対話」が重要となりますので、組合員・役職員が一丸となってしっかりと取り組んで参りましょう。

結びになりますが、本年は卯年です。卯は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」、また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。

他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、新型コロナウイルスの1日も早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新年を迎えて

札内農業協同組合 代表監事

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様をはじめご家族の皆様には、健やかな新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、組合員の皆様方には、日頃より当農協の事業運営にご協力とご理解を頂き感謝と御礼を申し上げます。

令和4年を振り返りますと、新型コロナウイルスにより世界中の経済活動が振り回されている中、北京オリンピックが2月に開催され、20日閉幕後の24日から開始されたロシアによるウクライナへの軍事侵攻の長期化に伴い世界経済がさらに悪化し、資源エネルギーの価格高騰に始まり、肥料、飼料、食品などの物価高騰により先の見えない状況となりました。

こうした中で、農業を振り返りますと、根雪は遅かったものの積雪量は平年並みであり、春耕期の作業も天候に恵まれ順調に進みましたが、干ばつ・低温傾向となり作物の生育不良が心配されました。小麦の収穫期は順調に進みましたが、粗麦数量で9俵台の収穫となり、昨年よりも大きく下回りました。その後も、周期的に降水があり防除などの管理作業・馬鈴薯収穫作業に影響がありました。小豆は、開花期の大雨と強風により倒伏した圃場があり、収穫作業に苦戦し収量も平年には及びませんでした。甜菜は、初期生育が平年並みで期待をしていましたが、後半になると褐斑病の圃場が多く、低糖分で収穫が始まり収量も予想を下回りました。

畜産においても、配合飼料の高騰により乳価が生産コストを下回り、生乳生産が計画通り進まず、個体販売も販売単価が下がるなど畜産農業者には厳しい年となりました。

農業情勢は、農業者の高齢化と後継者や担い手不足など農業の構造変化の中、今後の動き

に注視していきたいと考えております。

監事会においても、役員改選により新しい体制となりましたが、内部監査室と連携して監査業務を通して経営全般の強化に取り組んでいきたいと考えております。また、不祥事防止の観点から役職員との意思疎通を図り、コンプライアンスの徹底、内部統制の強化に取り組んでいきたいと考えております。組合員各位におかれましても引き続きご協力をよろしくお願い致します。

本年は、物価高騰により先の見えないスタートとなりますが、終息の見えない新型コロナウイルスと共存をし、災害もなく豊穰の出来秋を迎えることができますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。



新年のご挨拶

札幌農業協同組合 青年部長

新年あけましておめでとうございます。皆様方には謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しましてご理解、ご支援、ご協力をいただいております組合員の皆様、農協役職員の皆様には改めて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、春先の干ばつの影響を受け、一部被害があったものの、概ね順調に推移し、各農産物の生育は良好でした。秋の収穫作業も天気にも恵まれ順調に進むと思われましたが、降水量の地域差はあったものの、長雨により農産物の品質低下や収穫作業に若干の遅れが生じました。

一方で、昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻により飼料、資材、燃料の価格高騰や急激な円安が起きたことが農業の生産基盤に大きな影響を与え、農業情勢はいまだ混乱しています。今後の見通しが不明のため、生産現場も依然として大きな不安を抱えております。

青年部活動では、新型コロナウイルス蔓延による制限が緩和された事により活動を再開することができ、6月に農協施設周辺の環境整備を行いました。7月には、恒例行事となっている農協役職員とのパークゴルフ大会を行うことができ、多くの方々にご参加いただいたことを大変嬉しく思っております。10月には、幕別町教育委員会と協力し実施している食育推進事業を、札幌南小学校の3年生を対象に、ビートの収穫体験を行いました。ビートについての青空授業、農機具見学、ビートの収穫体験の3班に分かれ、青年部員が協力し合い、とても良い学びの場となりました。たくさんの質問をいただき、一生懸命楽しんでくれる姿を見て、わたしも嬉しくなったとともに、食と農業に対して興味を持っていることにとても感心しました。

今後も次世代を担う農業者となるべく、各種事業を通じて知識や技術の習得、盟友個々の意識の向上を図り地域農業の復興と魅力ある青年部活動を目指していきたいと考えており

ます。

最後に、本年も変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げるとともに、部員各位、そして組合員の皆様の今年一年のご健康とご多幸を祈念し、年頭の挨拶と致します。



新年のご挨拶

札幌農業協同組合 女性部長

女性部員、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素より女性部活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。

本年度は、前年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した中での活動となりました。令和4年度の定期総会も前年に続き、書面議決での開催となりました。

このような状況も、緊急事態宣言の解除など少しずつ明るい兆しが見えたところで、6月に下部組織合同交流会としてパークゴルフを計画しました。しかしながら、当日はあいにくの天気となり、場所を農協へと変更しました。折しも、新しく就任された農協役員の方々にご来場いただくことができ、顔合わせしていただきました。その後、短時間ではありましたが、久々に女性部の対面での交流ができて嬉しく思いました。

以降は、感染者数の増加などもあり、計画の見直しをしながら状況に則した対応となりました。凶らずも罹患された方々にはお見舞い申し上げます。

11月には、生涯学習として、昨年予定していたもののやむを得ず中止となったヨガ講習を開催しました。日頃の疲れを癒しながら筋肉をもみほぐし、終了時にはリフレッシュできた気がします。講師の方のお話では、バランスが大事とのことで、左右で硬さが違う場合などは体のゆがみにつながるので、意識して手をかけると良いそうです。今後も、心身ともに元気になるような活動ができればと思います。

年頭に当たり、願うことは世界平和、物価や流通の安定、家族の健康など、大小天の向こうから足元まで多岐にわたりますが、あきらめることなく望みは持ち続けたいものです。そのために、生産者として、一消費者としても自然の恵みに感謝しながら私たちにできることを一つ一つ取り組みたいと思います。確かな情報を得て交換しながら学び合い、繋がることで日々の生活に還元していけるように努めます。

最後になりましたが、営農を支える一つの柱として今後とも女性部活動にご理解いただき、さらなるご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。全ての人に食糧が行き渡り、平和で穏やかに過ごせることもあわせて、組合員並びにご家族皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

青年部幕別町立学校食育推進事業

青年部と幕別町教育委員会が協力して実施している食育推進事業が、10月28日に行われました。

今年度は、札内南小学校の3年生を対象にビートの収穫体験、トラクター及び機械の見学説明会、ビートについての青空授業を行いました。

ビートの収穫体験では、生徒達は大きなビートを探し、無我夢中で作業に没頭していました。一人で引き抜けない時は友達と一緒に協力して引き抜く姿もありました。トラクター及び機械の見学説明会では、青年部員がトラクターについての説明、ビートの収穫方法の説明をしました。青空授業はビートに関する授業を行い、〇×クイズやビートが出来るまでの流れについて学びました。

青年部員は充実感と達成感を得ることが出来たと振り返り、食育事業を大成功で終えることが出来ました。



消防訓練



幕別消防署札内支署協力のもと11月2日に、消防訓練が農協事務所にて行われました。

本年度は事務所内からの火災発生を想定し、火災報知機発報から、火災発生確認・初期消火、消防への通報、屋外避難までの流れを確認するとともに、金融窓口のお客様を想定した避難誘導も取り入れて訓練を行いました。

避難訓練終了後は、訓練用の水消火器を用いて初期消火の訓練を行いました。

女性部生涯学習会

女性部の生涯学習会が、11月30日に農協2階会議室にて行われました。

今年度は、ヨガデザイン北海道の角島あさみさんに講師に来ていただきヨガ講習を行いました。

部員の方々は、講師のお話を真剣に聞くとともに、互いに姿勢を確認し合うなど和気藹々とした雰囲気講習を受けていました。

講習では、筋肉をしっかり伸ばしもみほぐすことで、日頃の疲れを癒しリフレッシュすることができました。

